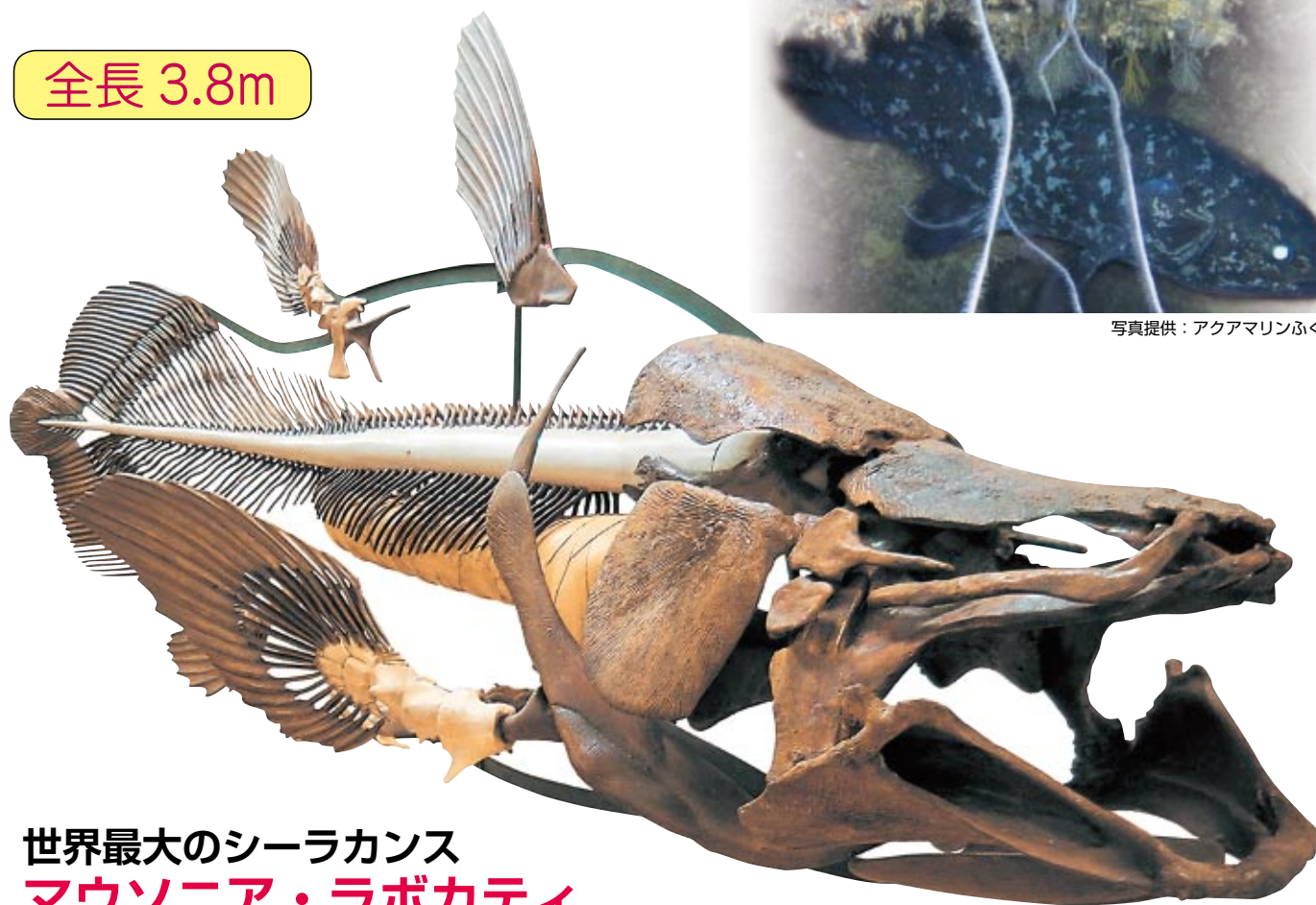


博物館 ニュース

Museum News
No.74

全長 3.8m



写真提供：アクアマリンふくしま

世界最大のシーラカンス マウソニア・ラボカティ (復元骨格) (北九州市立自然史・歴史博物館蔵)

シーラカンスは、古^こ生^{せい}代^{だい}デ^{てい}ボン^{ぼん}紀^き後^ご期^き～中^{ちゅう}生^{せい}代^{だい}白^{はく}亜^あ紀^き後^ご期^き (3億6500万年～7500万年前)の地層から化石として産出し、新^{しん}生^{せい}代^{だい}の地層からは発見されていないため、白^{はく}亜^あ紀^き末^{まつ} (約6500万年前)に絶^{ぜつ}滅^{めつ}したと考えられていました。しかし、1938年に南アフリカ共和国で生きたシーラカンスが捕^ほ獲^{かく}され、世界的なニュースになりました。

マウソニア・ラボカティ (*Mawsonia lavocati*) は、1963年にモロッコの白^{はく}亜^あ紀^き前^{ぜん}期^きの地層から発見されたシーラカンスです。その際、発見されたのは下^か顎^{がく}の一部の骨でしたが、その後、アルジェリアとモロッコから頭の骨が報告されました。また、モロッコで発見された化石の中にシーラカンスとして世界最大のものがあり、ブラジルで発見された同じグループの全身骨格化石をもとに復元したところ、全長3.8mにも達することが判明しました。

この標本は、2008年夏に北九州市立自然史・歴史博物館の「シーラカンス展 - ブラジルの化石と大陸移動の証人たち -」で初公開され、このたび巡回展として当館でも展示されます。

(地学担当：辻野泰之)

早春のヒマラヤ^{しょうようじゅりんたい}照葉樹林帯を歩く

茨木 靖

皆さんはヒマラヤと言うと、どのような景色をイメージしますか？ ちょっと意外ですが、実はヒマラヤの裾野^{すそ}は、私たちの住む徳島の低地に見られるのと同じ、照葉樹林帯となっているのです。では、一緒に早春のヒマラヤ照葉樹林帯の花々を見てみましょう。

ネパールの首都、カトマンズからバスに乗って東へ3時間ほどの所に、標高3573mの山があります。山の名前はカリンチョーク(Kalinchowk)、頂上にヒンズー教の有名なお寺がある信仰の山です。

まずは、標高2000mほどの中腹^{ちゅうぶく}から歩き出します。辺りは、徳島県の平地で見られるのと同じ照葉樹林帯です。ウバメガシに似たカシの仲間 *Quercus semecarpifolia* が多く生えています。この標高では、人々は畑を耕し、トウモロコシやコムギなどの作物を作っています。そ

の様子は、徳島の里山で見られるごく普通の景色に似ています。畑の周りにはスミレ科の *Viola pilosa*、シソ科の *Caryopteris odorata* (図1) や *Scutellaria repens* (図2)、そして、リンドウ科の *Gentiana pedicellata* (図3) などが花盛りです。村はずれを歩いていて、ふと眉山を歩いているような錯覚^{さくかく}に陥りました。それは、ウラジロにそっくりなシダ^{せんせい}が群生していたからです(図4)。この他に、徳島でもよく見かけるイネ科のイタチガヤ(図5) などが見られました。実は、日本もネパールも植物学的には、同じ“日華区系^{にっかくけい}区”と呼ばれる地域に含まれ、とても似通った植物が生えているのです。ただ、もちろん違っているとこもあります。例えば、畑の周りを歩いていて、真っ赤なシャクナゲを見つけました。ネパールの国花ラリグラス *Rhododendron arboreum* (図6) です。徳島ならばシャクナゲのなかまは



図1 シソのなかま
Caryopteris odorata



図3 リンドウのなかま
Gentiana pedicellata



図5 イタチガヤ



図2 シソのなかま
Scutellaria repens



図4 ウラジロによく似たシダ



図6 ラリグラス *Rhododendron arboreum*

高い山にしかありませんので、照葉樹林帯でシャクナゲを見るとは、なんだか不思議な感じでした。

もう少し標高を上げてみましょう。照葉樹の森の中を歩き、標高 2500m ほどで、ツガのなかま *Tsuga dumosa* (図 7) とハイノキのなかま *Simplocos sumuntia* が多い森になって来ました。森の中では、ジンチョウゲ科の *Daphne bholua* (図 8) が花盛りでした。この他にツゲ科の *Sarcococca wallichii* (図 9)、キク科の *Senecio cappa* など花を着けていました。夏には霧に覆われるのか、樹の幹にはユリやランのなかまが着生しています(図 10, 図 11)。ネパールでは、ランが咲いていても誰も採らないようで、そこかしこにたくさん花をつけていたのは印象的でした。

さらに、ぐんぐんと標高を上げて登ります。するといきなりモミのなかま *Abies spectabilis* の林に入りました。徳島ならば照葉樹林帯の上は、落葉樹林帯になっていますが、不思議なことにヒマラヤでは、照葉樹林帯と亜高

山の針葉樹林帯との間に落葉樹林帯がないことがほとんどなのです。

ここで困ったことが起きました。それは雪です(図 12)。ヒマラヤを訪れた 2007 年は、大変な異常気象で、カトマンズではおよそ 60 年ぶりに雪が降ったそうです。予想外の大雪のため、残念ながら亜高山帯の入り口で先に進めなくなってしまいました。早春の花々に囲まれた、のどかなひとときを過ごすことができた旅でした。

(植物担当)



図 9 ツゲ科の *Sarcococca wallichii*



図 10 ユリのなかま *Polygonatum punctatum*



図 7 ツガのなかま *Tsuga dumosa*



図 11 ランのなかま *Pleione humilis*



図 8 ジンチョウゲのなかま *Daphne bholua*



図 12 雪中のモミのなかま *Abies spectabilis* の林

徳島市内でプラタナスグンバイを発見

プラタナスグンバイ *Corythucha ciliata* (Say, 1832) は、カメムシ目グンバイムシ科に属する体長3 mm程度の小さなカメムシです(図1)。「グンバイムシ」という名は、その体つきが相撲の行司が手にする軍配に似ていることに由来しています。また、体の背面は網目状でスタンドグラスのようにきらびやかな様相を呈することから、英名で「lace bug (レース・バグ)」と言います。小さくてきれいな昆虫ですが、実は、最近日本へ侵入してきた外来生物なのです。

北アメリカ原産のプラタナスグンバイは、2001年に愛知県名古屋市で初めて発見され、ほぼ同時に、東京都、横浜市、静岡市、松山市、北九州市からも確認されました(時広ら, 2003)。その後、都市部を中心に急速に全国各地へ分布を拡げていきました。プラタナスグンバイは、街路樹や公園などに植栽されているプラタナスを加害することが知られています。したがって、大きな被害が確認された都道府県では、病害虫防除所によって注意が勧告されています。我が国ではプラタナス以外にイタリアポプラからも発生し、さらに海外では、クルミ科、ブナ科、クワ科、マンサク科、カエデ科の植物などに寄生することが知られています。そのため、クルミやクワなどを栽培する農家への影響が懸念されています。

四国では、2003年に愛媛県松山市で確認されたのが最初で、2006年には高知県からも見つかりました(山下, 2008)。分布の拡がり方や近県の発生状況から判断すれば、徳島県でもすでに発

生している可能性が高いと考え、街路樹として植栽されているプラタナスを気にかけるようになりました。植物担当の小川・茨木両学芸員によると、徳島市内では吉野川大橋南詰から中徳島町にかけてと北常三島町の交差点から中吉野町にかけて植えられているそうです。7~8月にかけては、とくに変わった様子は見られませんでした。夏、猛暑がやわらいだ9月の終わりになると、葉が所々黄~白化していることに気づきました。すぐに調べてみたところ、葉裏に集団で発生しているプラタナスグンバイを確認したのです。他のプラタナスも注意深く観察した結果、ほとんどの木で発生しており、発生密度の高い葉では葉の一面が白色に変色していました。

被害がひどい場合、植栽されているプラタナスの景観は著しく損なわれてしまいます。それだけでなく、成虫が街路樹周辺の住宅へ飛来し、洗濯物の衣服や布団に付着するなど不快害虫としても報告されています(徳丸, 2009)。そのため、プラタナスグンバイを防除するための薬剤が開発されているほどです。幸いにも、今回は甚大な被害が見られませんでした。徳島県での情報は十分に蓄積されていません。今後も注意深く調べていく必要があります。(動物担当: 山田量崇)

(参考文献)

- 時広五朗ら(2003) 植防研報, (39): 85-87.
- 徳丸 晋(2009) 今月の農業, 53(2): 88-91.
- 山下 泉(2008) げんせい, (84) 20.



図1 プラタナスグンバイ(成虫)



図2 葉裏の寄生状況。赤い矢印は幼虫。黒い斑点は排泄物。



シーラカンス展

ブラジルの化石と大陸移動の証人たち

ユーラシア、アフリカ、南北アメリカなどの6つの大陸は、かつてパンゲアとよばれる一つの超大陸でした。この大陸に生息していた植物や動物の化石が、現在世界各地の地層から発見されています。特にブラジルから産出するシーラカンスなどの化石は、南アメリカとアフリカがかつて一つの大陸であったことを示す重要な証人といっ

てよいでしょう。この企画展では、生きていた化石として知られるシーラカンスやブラジル産の魚類化石を通して、大陸移動や大西洋ができた頃の海の様子、かつて地球上にパンゲアと呼ばれる一つの超大陸があったことを紹介します。

展示構成

第一章 大陸移動とは

大陸移動説の証拠となった様々な化石を展示し、紹介します。

第二章 大陸移動のもう一人の証人シーラカンス
最古のシーラカンスをはじめ各時代の化石シーラカンスを展示し、シーラカンスの全体像に迫ります。また、世界最大のシーラカンス(復元骨格)を展示します。

第三章 大西洋ができたころの魚たち

およそ1億2000万年前、大西洋ができた頃の白亜紀の海の様子を、ブラジル産の魚類化石を展示することで紹介します。

第四章 シーラカンスプロジェクト

インドネシアで発見されたシーラカンスのレプリカや、世界で初めて撮影に成功したインドネシアシーラカンスの水中映像、また、その解剖・CTスキャン画像などを展示し、最新のシーラカンス研究について紹介します。



メソサウルス

大陸移動説の証拠のひとつとなった淡水にすんでいた爬虫類

- 主 催 徳島県立博物館
- 共 催 (財)福岡文化財団
- 協力監修 北九州市立自然史・歴史博物館
- 協 力 アクアマリンふくしま
- 会 期 4月25日(土)～6月14日(日)
- 休 館 日 4月27日, 5月7日・11日・18日・25日, 6月1日・8日
- 会 場 博物館1階企画展示室
- 観 覧 料 一般200円/高校・大学生100円
小・中学生50円
20名以上の団体は2割引, 土・日・祝日の小・中・高校生および学校遠足は無料

関連行事

●展示解説

5月3日・5月10日・6月7日(日) 14:00～14:30
(大学生と一般の方は観覧料が必要です。)

●「シーラカンスのペーパークラフトをつくろう」

5月24日(日) 13:00～15:30
(定員30名, 事前に申し込みが必要です。)



世界最大!
シーラカンス

全長3.8m

マウソニア・ラボカティの復元骨格

世界唯一の全身化石



マウソニア・ブラジリエンス



ミグアシャイア

最も原始的なシーラカンスのひとつ

雛掛軸

図1の資料は、雛掛軸というものです。内裏の様子を摸した背景に、紙で作られた男雛、女雛の人形をくっつけて飾るようになっています。3月の雛祭りに使用されました。昭和12(1937)年、もしくは昭和16(1941)年に、徳島市内で生まれた女の子のために購入されたものだそうです。

現在雛祭りの飾りといえば、土製のきれいな衣装をつけた雛人形に、さまざまな調度の飾りがセットになったものを思い浮かべます。けれども、徳島県内のかつての雛祭りの様子が記載されている文献を読んでいると、雛人形を飾る代わりに、雛掛軸もしくは雛段の掛軸を飾るという記述を見かけます。また、県内のあちこちで、図1と同じような雛掛軸を保管しているお宅を見かけます。雛掛軸は、かつて県内でよく用いられた雛飾りの一様式だったと思われます。

さて、この雛掛軸で興味深いのは、上段に描かれた内裏雛の下に、桜の木と武将の絵が描かれていることです。この武将はいったい誰だろうと思いませんか？ 私は最初まったくわかりませんでした。戦前生まれの女性から「この武将は、文部省唱歌にあったんよ」というお話を聞き、調べてみると、ようやく、これが「児島高德」という人物であることにたどり着きました。

児島高德は、鎌倉時代末期から南北朝時代にかけて活躍した備前国出身の武士とされ、『太平記』に登場します。隠岐へ流される途中の後醍醐天皇を奪回しようと、そのあとを追いましたが、目的は果せず、せめて志だけでも伝えようと、天皇の宿所の庭に忍び込み、桜の木の幹を削って、中国越王勾踐の故事に因んだ十字の詩を書いたという話で知られる人です。南朝の忠臣として讃えられ、戦前の学校教育において、教材となっていたそうです。文部省唱歌に「児島高德」という歌があり、大正3(1914)年に『尋常小学唱歌』に掲載され、昭和7(1932)年に発行された『新訂尋常小学唱歌』まで掲載されていたそうです。

したがって、昭和の初め頃、学校に通っていた子どもたちは、この児島高德についてあたり前の

ように知っていたものだと推測します。この雛掛軸の図柄は、当時の子どもたちへの教育を反映したもののなのでしょう。

子どもが享受する知識は、時代が違えばずいぶん異なるものなんだと、あらためて考えさせられた資料です。 庄武憲子（民俗担当）



図1 雛掛軸



図2 児島高德が描かれた部分。筆を持ち、桜の幹に詩を書いている様子がわかります。



蒔絵師 桃枝について教えてください。



上の質問は、今年1月に徳島県内の方からメールで頂いたものです。地元で郷土史に関心をお持ちの方なら、観松齋飯塚桃葉の名を、一度はお聞きになったのではないのでしょうか。質問された方も、桃葉に関連して桃枝の名前をお知りになられたのかもしれませんが。

飯塚桃葉は、18世紀後半に、阿波蜂須賀家に抱えられた江戸の蒔絵師で、名人として知られています。桃枝は、桃葉の後継者が修業時代にもちいた名前です。ただし、桃葉は明治の初めまで5代続いており、後継者がみな桃枝を名のったわけではありません。

記録および作品に記された銘から、桃葉各代を追うと以下ようになります。

初代が寛政2(1790)年に没した後、桃枝が二代目を継いで桃葉を名のります。やがて初代の孫桃秀が活動を始め、天保2(1831)年以前に三代桃葉になります。彼は、観松齋のほかに一艸庵、縫雪とも号しました。また天保12(1841)年に、養子桃枝とともに阿波を訪れています。この桃枝は、養父が桃秀であったころから活動し、後に四代目を継いだらしく、桃葉の名で元治元(1864)年に没しています。彼の跡取りは、天保9(1838)年に生まれ、五代桃葉として徳島に移住し明治を迎えましたが、初名が知られていません。

今のところ、二代目と四代目が、若いときに桃枝を名のった事実が確認されます。

桃枝の作品として、百合を蒔絵した煙草入を写真に示します(図1, 2)。比較的多くの銘に、図2

とよく似た字形と花押が認められますが、これはどちらの桃枝なのでしょう。長らく未解決だったこの問題を解く手がかりが、近年明らかにされました。

現在、茶道裏千家と徳川美術館(名古屋市)の2カ所に、扇子を象った同形同大の木地香合(お香入れ)があります。前者の香合は、もと蜂須賀家に伝来し、後者は尾張徳川家にありました。

これら2合は、十三代徳島藩主蜂須賀斉裕が、淡路守を受領していた天保6(1835)年から同14年の間に作らせたものです。1合は、自身が箱書きをして、十二代尾張藩主徳川斉荘に贈り、他の1合は、斉荘に箱書きをしてもらい手許に留めました。斉荘と斉裕は、十一代将軍徳川家斉の子で、別々の家の養子になりましたが、兄弟同士の間柄です。

扇形は、家康が用いた金扇の馬印を表しています。素地は、関ヶ原合戦のとき、家康が構えた陣屋の柱と伝えられる木で、現地の土民から入手したものでした(茶道資料館編『徳川斉荘公と玄々斎宗室』, 2003年)。

ところで、大阪市立美術館に、やはり関ヶ原御陣営の旧材と銘書きされた印籠・根付があります。桃枝の作者銘がそなわり、字形と花押が図2のそれと大方共通します。

この印籠・根付は、銘を信じる限り、先述の香合と同じ材を用いて、近い時期に桃枝が作ったと解釈されます。作者の桃枝は、天保頃の人であり、後の四代桃葉に該当すると考えられましょう。

二代桃葉に当たるもう1人の桃枝は、図2とは異なる銘を用いたと想像されます。証拠はありませんが、たとえば図3などが候補にあげられます。

(美術工芸担当：大橋俊雄)



図1 桃枝作 百合蒔絵煙草入(徳島市立徳島城博物館蔵)百合の枝と蝶が、両面にまたがって蒔絵されている。緒の先にある円い木は根付。



図2 同銘。作者の名と花押が、金蒔絵で書かれている。



図3 桃枝銘の一例 THE INDEX OF INRO ARTISTS (E.A.WRANGHAM 編, 1995) より転載。

シリーズ名	行事名	実施日	実施時間	申込	対象(定員)	備考
歴史体験	トンボ玉をつくろう①	4月19日(日)	13:30~16:30	要	高校生以上(20)	★材料費100円
歴史散歩	古墳見学①(徳島・美馬)	5月31日(日)	9:00~17:00	要	小学生から一般(45)	貸切バス
	伊島を歩こう	6月7日(日)	8:00~16:00	要	小学生から一般(20)	現地集合
野外自然かんさつ	春の旭ヶ丸に咲く花を探そう	5月10日(日)	10:00~14:00	要	小学生から一般(30)	現地集合
	磯の生きもの	5月10日(日)	12:00~14:00	要	小学生から一般(70)	現地集合
	眉山の地質ハイキング	5月17日(日)	13:00~16:00	要	小学生から一般(25)	現地集合
	浜辺の植物かんさつ	5月31日(日)	13:00~14:30	要	小学生から一般(15)	現地集合
室内実習	春の野草かんさつ	4月26日(日)	13:30~16:30	要	小学生から一般(20)	
	ミクロの世界—電子顕微鏡で植物を見よう!	6月21日(日)	13:30~15:30	要	小学生から一般(10)	
歴史文化講座	徳島県の前方便後円墳	5月24日(日)	13:30~15:00	不要	小学生から一般(50)	海南文化館
	仏像のはなし	6月28日(日)	13:30~15:00	不要	小学生から一般(50)	海南文化館
企画展関連行事	企画展「シーラカンス展」展示解説①	5月3日(日)	14:00~14:30	不要	小学生から一般	観覧料必要
	企画展「シーラカンス展」展示解説②	5月10日(日)	14:00~14:30	不要	小学生から一般	観覧料必要
	シーラカンスのペーパークラフトをつくろう	5月24日(日)	13:00~15:30	要	小学生から一般(30)	
	企画展「シーラカンス展」展示解説③	6月7日(日)	14:00~14:30	不要	小学生から一般	観覧料必要
博物館フェスティバル	こどもの日フェスティバル	5月5日(火)	9:30~16:00	不要	小学生から一般	受付15:30まで

◎小学生が参加する場合は、保護者同伴です。

◎企画展の展示解説は、企画展観覧料が必要です(高校生以下は無料)。

★歴史体験「トンボ玉をつくろう①」では、大学生・一般の方は材料費100円が必要です。

●お申し込みについて●

- ◎1枚の往復はがきには、1行事のみご記入ください。
- ◎行事日の1か月前から10日前までに必着で右記までお申し込みください。
- ◎返信用はがきの住所・氏名も忘れずに記入しておいてください。
- ◎希望者が多数の場合は抽選とし、詳しいことは当選された方にお知らせします。
- ◎原則として、参加費は無料です。

記入例

〈往信の表面〉	〈返信の裏面〉	〈返信の表面〉	〈往信の裏面〉
50 770-8070 往信 徳島市八万町 向寺山 徳島県立博物館 普及課	何も書かないでください	50 000-0000 返信 あなたの 郵便番号 住所 氏名	1. 参加希望の 行事名 2. 参加希望者 全員名(学年) 3. 住所 4. 電話番号

※お問い合わせは、徳島県立博物館普及課へ(電話088-668-3636)

博物館友の会に入会しませんか？

博物館友の会は、さまざまな活動を通じて自然や文化に親しむとともに、会員相互の交流をはかっています。2009年度も楽しい行事が予定されています。みなさんも参加してみませんか？

■年会費 個人会員 2000円、家族会員 3000円

■会員の特典

- ・年間を通して博物館の常設展、企画展の観覧料が無料になります。
- ・友の会の出版物やミュージアムショップの品物を割引価格で買うことができます。
- ・催し物案内、博物館ニュース、会報等が送付されます。

●くわしくは友の会事務局(電話088-668-3636)まで●



博物館友の会行事「化石を探そう」

博物館ニュース No.74

■発行年月日 2009年3月25日
 ■編集・発行 徳島県立博物館 〒770-8070 徳島市八万町向寺山
 TEL088-668-3636 FAX088-668-7197
 http://www.museum.tokushima-ec.ed.jp